

# 国語解答

4						
小計	4点				小計	2点
／	( )				／	( )
(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	
工	負	ア	複	自	③	①
37	の	35	線	己	イ	ウ
	連		化	肯	31	29
	鎖		34	定	④	②
			(3)書き抜き	感	オ	カ
				33	32	30
				(2)書き抜き		
				36		
				(5)書き抜き		

3									
小計	4点					減点			
／	( )					-	( )		
(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)			
イ	自	ア	②	①	イ	楽	、	前	工
28	転	26	エ	こ	23	に	目	の	21
	車		25	の		な	標	自	
	を			二		る	が	転	
	降			人			で	車	
	り			連		と	き	が	
	て			れ		い	て	風	
				な		う	、	よ	
				24		利	走	け	
				(4)①書き抜き		点	る	に	
				27		。の	な	が	
				(6)書き抜き				り	
								22	

2	
小計	2点
／	( )
(2)	(1)
①	①
キ	イ
15	9
②	②
シ	エ
16	10
③	③
ウ	ウ
17	11
④	④
ケ	ウ
18	12
⑤	⑤
カ	ア
19	13
⑥	⑥
ク	エ
20	14

1	
小計	2点
／	( )
(5)	(1)
⑤	①
険	つど
しい	う
5	1
(6)	(2)
⑥	②
拝	しば
む	る
6	2
(7)	(3)
⑦	③
雑穀	じきそ
7	3
(8)	(4)
⑧	④
統治	かいひん
8	4

- (2) (列例) 「前の自転車を目標や風よけにできるので、走りやすくなるという利点。」  
 (列例) 「前の自転車が目標や風よけになるおかげで、凍が楽に走れるという利点。」
- ・「前の自転車」ということが用いられていないものは0点。
  - ・「(前の自転車が) 風よけになる」「(前の自転車を) 風よけにする」「(前の自転車で) 風よけができる・風が当たらない・風当たりが少ない・空気抵抗が少ない」にあたる内容がないものは-2点。
  - ・「(前の自転車が) 目標になる」「(前の自転車を) 目標にする・目標にできる」にあたる内容がないものは-2点。
  - ・「走るのが楽だ・楽に走れる・走りやすい・走りやすくなる」にあたる内容がないものは-2点。
  - ・「速く走る・速い (前の自転車)」「(前の自転車の) おかげ」「後ろ」「凍」の有無は問わない。

# 解説

## 1 漢字の読み書き

### 2 漢字の成り立ち／部首

- (1) ② 「花」は、「化」が「カ」という音読みを表す形声文字です。
- ③ 「孫」は、「子」と「系」とが組み合わさった会意文字です。
- ④ 「信」は、「人」と「言」とが組み合わさった会意文字です。
- ⑥ 「梨」は、「利」が「リ」という音読みを表す形声文字です。
- (2) ③ 形が似ている「ころもへん」と「しめすへん」の区別に注意しましょう。
- ④ 「間」「関」「開」「閉」「閣」などの部首は「もんがまえ」になりますが、「間」「問」の部首は、それぞれ「みみ」「くち」になります。通常、形声文字の音を表す部分は部首にはならず、意味を表す部分が部首になります。

### 3 小説（川西蘭「あねチャリ」より）

- (1) 直後の段落の「呼吸は弾んでいるけれど、漕ぎ続けていられそうだった」からは、自転車に一月半乗り続けたことで回復した体力に対する凜の自信が読み取れます。
- (2) 前の本文中の「速く走る自転車のうしろにつくと、」で始まる段落の内容をまとめましょう。
- (3) 傍線部の「く迷い込んだみたいだ」の「みたいだ」や、「鳥のように」の「ように」は比喩であることを直接示すことばです。
- (4) ① たとえば本文中の場面をラジオドラマ化したとき、地の文（会話文以外の説明や描写の文）を読むナレーションではなく、凜役のせりふになる言葉はどれかと考えて適切な一文を探しましょう。
- ② 本文中のあちらこちらに凜の心の中の言葉が挿入されることで、読み手は、心情が展開に合わせて移り変わっていく凜の立場に自分自身を投影しやすくなっています。
- (5) 「町中で出会ったら、目を合わせたくないタイプ」である見知らぬおじさんの「ついてこい」という命令に凜が従ったのは、鍛え抜いたアスリートを思わせるおじさんの姿と、スタンドもついていないドロップハンドルのシンプルな自転車を目にしたことで、このおじさんならばパンクした状況を何とか打開してくれるのではないかと期待したからです。
- (6) ぬげ落ちていいる文に「自転車を止めた」とあるので、本文中から、自転車で走っている場面から自転車を止めたあとの場面に移り変わっている部分を探しましょう。
- (7) アは「しぶしぶ自転車に乗っていた」が、ウは「鬱屈した感情や心の迷いが少しずつ晴れてきている」が、オは「親切なおじさんに出会い、幸運に感じている」が、それぞれ本文の内容に合いません。

### 4 説明的文章（上田紀行「人生の（逃げ場）」より）

- (1) 二か所ある空欄②は、前の空欄の前後で、子どもにとって居心地の悪い家庭と、大人にとって居心地の悪い家庭とが並べられ、あとの空欄の前後では、子どもにとって望ましい父親像が並べられています。また、二か所ある空欄③は、前の空欄の前後で、一元的な価値観の子どもが会社で働き始めることについての危惧に続いてその子どもが結婚して子どもを授かることについての危惧が付け加えられ、あとの空欄の前後では、子どもが楽しく生きることに関して大人も元気になることが付け加えられています。
- (3) 正解部分では、価値観を線路にたとえて、価値観の多元化を「複線化」と表現しています。
- (4) エの選択肢にある「比較したり対立したりするものが他にない」という「絶対」の意味とは対照的に、アの選択肢にある「唯一絶対のものではない」が「相対」の意味にあたります。
- (5) 「悪循環」とは、ある事柄が他の悪い状態を引き起こし、それがまたさらに悪い影響を及ぼすという「負の連鎖」が繰り返されて、事態がますます悪くなることを表します。
- (6) エは本文最後の段落の内容に通じています。